

稲作農家 各位

山武稲作情報 第3報

(2025年6月19日発行)



山武農業事務所 改良普及課
TEL: 0475-54-0226
FAX: 0475-52-7914

山武地域の生育状況

現在、山武地域の水稻の草丈、葉齢、葉色は平年並みに推移しています。茎数に関しては、「ふさこがね」「アキヒカリ」は、平年と比較して生育量が多く、その他の品種は平年と比較して7～8割程度と少なく推移しています。5月末は気温が低く推移し、茎数が平年と比較して約6割でしたが、6月4日から気温が上がり日照時間が多くなったことで、生育量がやや回復しています。今後、気温は平年と比較して、高く推移する見込みです。暑さにより発生が助長される紋枯病の発生や、生育(幼穂形成期や出穂期)の早まり等に注意しましょう。

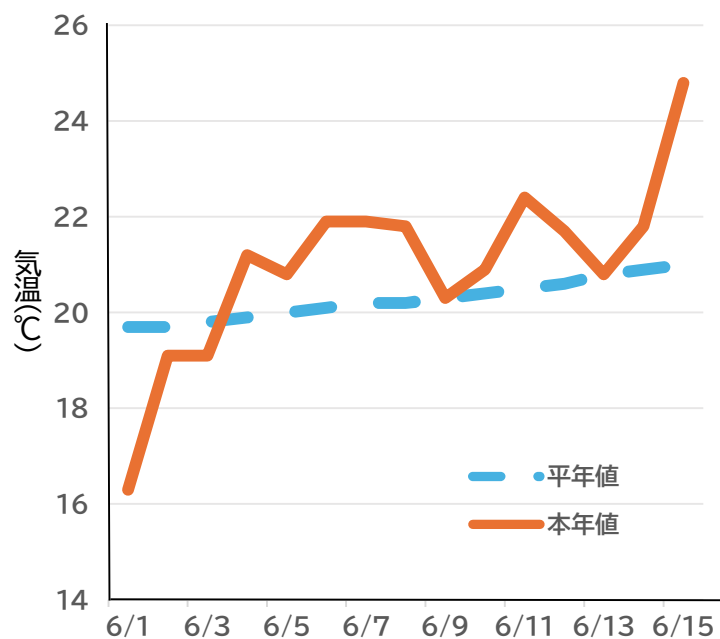


図1 日平均気温の推移(アメダス、横芝光)

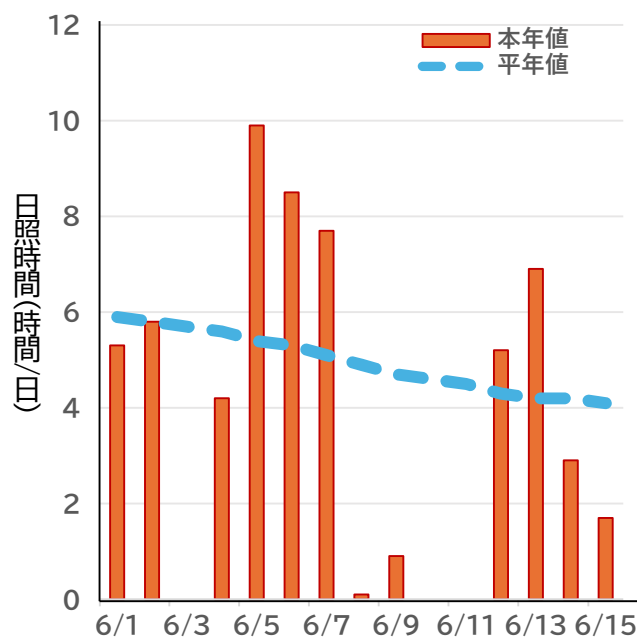


図2 日照時間の推移(アメダス、横芝光)

農作物病虫害雑草防除指針について

千葉県ホームページに「農作物病虫害雑草防除指針(付 植物成長調節剤使用指針)」が掲載されています。本指針は、県内で栽培される主な農作物に発生する病虫害について、農薬の選び方に加え、農薬以外の対策に関する情報を掲載しています。

※利用される方は、「利用に当たって」のページを必ず確認してください。

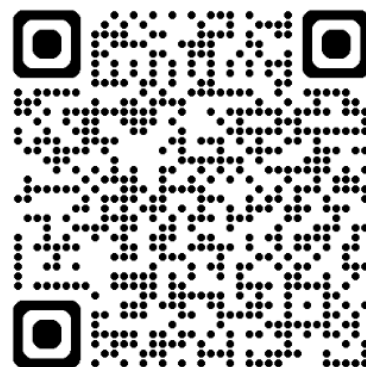


図3 県 HP(農作物病虫害防除指針)

◇難防除雑草「ナガエツルノゲイトウ」の発生・拡散防止

特定外来生物である「**ナガエツルノゲイトウ**」が山武地域管内にも分布しております。河川・用水路から茎断片が流れ拡散します。定着すると駆除が非常に困難なため、**早期発見・早期防除**に取り組ましましょう。

①刈払機で除草しない！

②除草剤防除を徹底！

(QRコードを参照)



図1 防除資料



写真1 本田に侵入したナガエツルノゲイトウ

◇病害虫に注意！

○紋枯病について

気温が上がり、梅雨の時期になると紋枯病に感染しやすい気候になります。今年の夏は、平年よりも気温が高く紋枯病の発生リスクが高い年になると予想されます。紋枯病は、上位葉鞘まで症状が進行すると**登熟を妨げ、収量・品質に悪影響**を及ぼします。前年度、本病害が発生したほ場では、第一次感染源である菌核が越冬しているので、発病が見られなくても防除に取り組ましましょう。

防除時期は、粒剤散布では出穂20日前ごろ、粉剤・水和剤では、出穂15日前ごろの発病株率が15%以上なら、穂ばらみ期までに散布しましょう。その後、病勢が抑えられない場合は、穂揃期ごろに追加散布を行いましょう。



写真2 紋枯病に罹病した稲株

○イネカメムシについて

イネカメムシは近年、全国的に水稻の収量・品質への被害をもたらしている害虫で、山武地域でも発生が増えてきています。特徴は、一般的な斑点米カメムシ類よりも水稻の穂を好み、出穂期前に飛来し**出穂期に加害**することです。その時期に加害された**穂は不稔となり、減収**につながります。浸透移行性の薬剤(植物体内に吸収された後に効果を発揮する薬剤)を出穂期前に散布し、出穂期に殺虫効果を発現させることで出穂期の加害を抑えましょう。



写真3 イネカメムシ(成虫)

生育調査結果(6月16日現在)

*本年値の()内は平年値との差を示しています。 *葉色の CS はカラスケールになります。

コシヒカリ(東金市)

移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)	幼穂形成期
4/26	本年	48.5(94%)	337.7(73%)	10.8(109%)	4.7(97%)	未形成
4/28	前年	46.8	554.4	9.7	4.4	6/26

ふさこがね(山武市)

移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)	幼穂形成期
5/3	本年	52.6(111%)	561.3(108%)	10.2(107%)	4.7(91%)	未形成
5/3	前年	44.1	492.7	9.1	4.7	6/21

ふさおとめ(山武市)

移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)	幼穂形成期
5/2	本年	40.4(96%)	406.0(79%)	10.5(101%)	5.7(111%)	未形成
4/30	前年	39.1	600.9	10.4	4.6	6/18

アキヒカリ(山武市)

移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)	幼穂形成期
4/23	本年	55.8(105%)	667.3(118%)	10.1(100%)	5.5(106%)	6/16
4/25	前年	51.3	567.3	10.1	4.4	6/14

幼穂形成期予測(6月16日現在)*

移植日	品種				
	コシヒカリ	ふさこがね	ふさおとめ	粒すけ	アキヒカリ
4/20	6/23	6/15	6/14	6/22	6/12
5/1	6/29	6/21	6/20	6/29	6/18
5/15	7/6	6/29	6/27	7/7	6/26

*幼穂形成期とはほ場の8割程度の幼穂が1mm以上になった時期のことを指しています。

*予測日は水稻生育予測システム「でるた™」(運用試験版)を用いて予測しています(アメダス横芝光)。移植時の苗の葉齢、活着状況、ほ場の気象条件、予測日以降の気象条件により誤差がある場合があります。

穂肥の適期*

品種	幼穂形成期からの日数	幼穂長
ふさおとめ	0~7日後	0.1~1cm
ふさこがね	7日後	1cm
コシヒカリ	7~15日後	1~8cm
粒すけ	7日後	1cm

*品種によって時期、施肥量が異なります。

*施肥量は生育状況を見て調整しましょう。

千葉県水稻温暖化対策研究室 成東育成地による生育調査結果(6月16日現在)

*調査は全て山武市で行われています。

*本年値の()内は平年値(「コシヒカリ」「ふさこがね」「ふさおとめ」は過去10年、4月移植「粒すけ」は過去6年、5月移植「粒すけ」は過去5年)との差を示しています。

品種・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢	葉色(CS*値)
コシヒカリ 4/25移植	本年	53.0(104%)	429.8(78%)	9.3(96%)	5.4(109%)
	前年	51.9	495.8	9.8	4.8
ふさこがね 4/25移植	本年	50.0(104%)	461.9(81%)	(100%)	5.7(107%)
	前年	48.9	522.2	9.9	5.1
ふさおとめ 4/25移植	本年	50.0(103%)	446.0(79%)	(98%)	5.2(106%)
	前年	50.0	511.5	10.6	4.9
粒すけ 4/25移植	本年	48.0(98%)	420.4(75%)	(103%)	5.6(105%)
	前年	48.8	527.5	10.2	5.1
粒すけ 5/15移植	本年	35.0(97%)	258.7(67%)	(105%)	5.4(96%)
	前年	35.6	396.0	9.1	5.5

・データの見方(調査基準について)

以下の図を参考に、稲を観察し、調査地点の数値と比較してみましょう。

